

● 授業計画

1年次

| 日程 | | | 限目時間 | 科目 | 内容 | 担当者 | 場所 |
|----|----------|----|------|---------|---|------|--|
| 毎月 | 第1 第3 | 火曜 | 4限 | 神経生理学特論 | 神経生理学において基本となる知識、理論、実験方法とその手技を学習する。神経系、神経内分泌系、自律神経系、疼痛、摂食・飲水行動および睡眠・覚醒調節機構における神経情報処理のメカニズムに関する理解を深める。 | 上田丸山 | ・第1生理学講座実験室およびカンファレンスルーム ・動物研究センター ・アイソトープ研究センター ・図書館視聴覚室 |

2年次

| 日程 | | | 限目時間 | 科目 | 内容 | 担当者 | 場所 |
|----|----------------|----------|---------------------|---------|---|------|--|
| 毎月 | 第1 第3 | 火曜 | 4限 | 神経生理学特論 | 神経生理学において基本となる知識、理論、実験方法とその手技を学習する。神経系、神経内分泌系、自律神経系、疼痛、摂食・飲水行動および睡眠・覚醒調節機構における神経情報処理のメカニズムに関する理解を深める。 | 上田丸山 | ・第1生理学講座実験室およびカンファレンスルーム ・動物研究センター ・アイソトープ研究センター ・図書館視聴覚室 |
| 毎月 | 第2 | 火曜 木曜 | 16:00 ～ 17:30 | 神経生理学演習 | <i>in vivo</i> および <i>in vitro</i> の実験系において、生理機能を解明するための神経生理学的手法を学び、さらにその意義と問題点を理解し、その実験手技を習得する。 | 上田丸山 | ・第1生理学講座実験室 ・動物研究センター ・アイソトープ研究センター |
| 毎月 | 第1 第2 第3 | 水曜 | 4限 | 神経生理学実習 | 解剖学的、免疫組織化学的、電気生理学的手法および遺伝子改変技術を用いることによって、ニューロンおよび神経内分泌細胞における生理学的変化を捉え、そのメカニズムを明らかにする。 | 上田丸山 | ・第1生理学講座実験室 ・動物研究センター ・アイソトープ研究センター |

3年次

| 日程 | | | 限目時間 | 科目 | 内容 | 担当者 | 場所 |
|----|----------------|----------|---------------------|-----------|--|------|---|
| 毎月 | 第2 | 火曜 木曜 | 16:00 ～ 17:30 | 神経生理学演習 | <i>in vivo</i> および <i>in vitro</i> の実験系において、生理機能を解明するための神経生理学的手法を学び、さらにその意義と問題点を理解し、その実験手技を習得する。 | 上田丸山 | ・第1生理学講座実験室 ・動物研究センター ・アイソトープ研究センター |
| 毎月 | 第1 第2 第3 | 水曜 | 4限 | 神経生理学実習 | 解剖学的、免疫組織化学的、電気生理学的手法および遺伝子改変技術を用いることによって、ニューロンおよび神経内分泌細胞における生理学的変化を捉え、そのメカニズムを明らかにする。 | 上田丸山 | ・第1生理学講座実験室 ・動物研究センター ・アイソトープ研究センター |
| 毎月 | 第2 第4 | 金曜 | 4限 | 神経生理学論文指導 | 科学データや論文作成の基本を習得する。論文の構成、図および表の作成方法を学習し、自ら得た結果を論文としてまとめることにより、神経生理学のアプローチ法を総合的に理解する。最終的には、英語論文でまとめることを目標とする。 | 上田丸山 | ・第1生理学講座実験室およびカンファレンスルーム ・図書館視聴覚室 |

4年次

| 日程 | | | 限目時間 | 科目 | 内容 | 担当者 | 場所 |
|----|----------------|----|------|-----------|--|------|---|
| 毎月 | 第1 第2 第3 | 水曜 | 4限 | 神経生理学実習 | 解剖学的、免疫組織化学的、電気生理学的手法および遺伝子改変技術を用いることによって、ニューロンおよび神経内分泌細胞における生理学的変化を捉え、そのメカニズムを明らかにする。 | 上田丸山 | ・第1生理学講座実験室 ・動物研究センター ・アイソトープ研究センター |
| 毎月 | 第2 第4 | 金曜 | 4限 | 神経生理学論文指導 | 科学データや論文作成の基本を習得する。論文の構成、図および表の作成方法を学習し、自ら得た結果を論文としてまとめることにより、神経生理学のアプローチ法を総合的に理解する。最終的には、英語論文でまとめることを目標とする。 | 上田丸山 | ・第1生理学講座実験室およびカンファレンスルーム ・図書館視聴覚室 |